【共同体として召された奥義】

説教者：鄭南哲（ちょんなむちょる）牧師

聖書箇所：創世記(旧約・新改訳2017版)3章１～２４節　　（Rev.Jung namchul）

1 さて蛇は、神である【主】が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は
女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」
2 女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。
3 しかし、園の中央にある木の実については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけな
い。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」
4 すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。
5 それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知って
いるのです。」
6 そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましか
った。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。
7 こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせ
て、自分たちのために腰の覆いを作った。
8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である【主】が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は神である【主】
の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。
9 神である【主】は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」
10彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であるのを恐れて、身を隠しています。」
11主は言われた。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわた
しが命じた木から食べたのか。」
12人は言った。「私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、
私は食べたのです。」
13神である【主】は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「蛇が私を惑わしたのです。
それで私は食べました。」
14神である【主】は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物
よりものろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べることになる。
15わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは
彼のかかとを打つ。」
16女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。また、
あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる。」
17また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べた
ので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。
18大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。
19あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは
土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」
20人は妻の名をエバと呼んだ。彼女が、生きるものすべての母だからであった。
21神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。
22神である【主】はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひとりのようになり、善悪を知るようになった。
今、人がその手を伸ばして、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」
23神である【主】は、人をエデンの園から追い出し、人が自分が取り出された大地を耕すようにされた。
24こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて回る炎の剣をエデンの園
の東に置かれた。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！全国的に一番寒い寒波が襲い、大雪などで被害が相次いで発生したニュースばかりの一週間でしたがいかがお過ごしでしたか。始まった今週一週間にも、主の御手がみなさんとともにあり、みなさんの日々の生活、健康、すべての手の業を助け、守り、導いて下さるように心からお祈り申し上げます。

私は電車とか、車の中で最近の人々の様子を見ると、なぜか孤独で、寂しそうに見える時が多くあります。確かに今日忙しい現代人たちはよく孤独だと、寂しいと訴えていますね。お年寄りの親御さんも、夫婦の間にも、親と子どもたちの間にも、仲間たちの間にも、会話と相通の不足や欠如でさらに孤独を感じてしまうのではないでしょうか。実際孤独の問題は人間ならみんな関わっている問題でもあります。その問題を解決しようと、ある人は仕事や事業に没

頭（ぼっとう）したり、ある人はずっとお酒、賭博に依存したり、体と世の楽しみにはまったりして見ますが、人の孤独は容易く去りません。人が孤独になるようになったその理由、そして人間の孤独の問題を根本的に解決するための神様からの解決方法は何であるかを共に捜さなければなりませんし、聖書には確かに、明確にその解決策が記されています！実は、昔も現代にも孤独は非常に切実な問題です。この切実な問題から、心の病、関係の破綻、引きこもり、中毒、依存症、自殺、いじめ、通り魔事件などなど様々な問題を発生させているからです。

しかし、この問題は人と会うだけでは解決になるわけではありまえん。私たちが体験する孤独は、家庭の中で、人ごみの中で、人々がたくさん住んでいる社会の中の孤独、根源的な孤独だからです。わたしは、孤独は誰もが経験する一つの心の病だと思います。さきほど話したように、この病を克服するために、ある人は仕事や事業に没頭したり、酒を飲んだり、ギャンブルに溺れたり、頻繁に旅行で出かけたり、今日インターネットやスマホゲームにはまったりしても、その瞬間だけで、それでも人の孤独が決して消えるわけではありません。孤独の問題を解決するためには、私たちがなぜ孤独になったのか、その理由を探さなければなりません。簡単に言えば、今日の聖書で見れば、それは祖先のせいだと教えて下さっています。私たちは祖先の間違えたせいで全ての人が孤独になったのです！

みんなよくご存じの本日の聖書箇所には、神によって造られたはじめの人アダムとエバの話が登場します。神は天地万物を創造された後、「良し」と言われました。また、人をお造りになり、アダムとエバを創造されたときも「非常に良かった」と言われました。ところが、この美しい場所である事件が起こります。サタンが蛇として現れ、エバを誘惑しました。
神様は2節に、エデンの園に多くの果実（かじつ）を与え、「どの果実を食べてもよい。ただし、3節に園の中央にある善悪を知る木の実だけは食べてはならない」と命じられました。サタンは、この「食べてはならない」という命令を誘惑の餌として使いました。

サタンはまず、神の愛に疑問を抱（だ）かせるように仕向けました。神が善悪を知る木の実を食べてはならないと言われた理由を巧妙（こうみょう）に**歪曲**しました。「5節に、それを食べると、あなたも神のようになれるから食べるなと言ったのだ」と。

サタンは、食べてもよいとされたすべての木の実の代わりに、「食べてはならない」とされたたった一つの木の実に女エバの視線を集中させました。「人間がライバルになることを神は恐れているのでは？」という疑いの目でエバはその木を見つめました。女がその木の実を見てみると、食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうに見えました。その果実を食べれば、神のようになれるという考えが浮かびました。そして、ついに彼女は自らその実を取って食べ、隣にいた夫にも食べさせました。これが私たち人類の祖先が犯した最初の罪であったことが分かります。

一般的に「罪」と聞くと、詐欺や盗みを連想します。それも確かに罪ですが、それらは私たちが罪人であるがゆえに現れる症状にすぎません。根本的な罪とは、「自分が神になろうとする意志」です。

ヘブル人たちにとって、善と悪は抽象的なものではなく、現実的かつ具体的なものです。ヘブル語のすべての単語は、動詞から派生しています。そのため、善とは「実生活に有益なもの」、悪とは「実生活に害を及ぼすもの」を意味します。それで善悪の実を食べたということは、こ**れからは何が自分にとって有益なのか、何が自分にとって害になるかを人が自分で決めるという意志を表現**したことを意味するのです。

罪を犯す以前、神と人間の関係は愛、信頼、信仰の関係でした。しかし、サタンがその信頼に疑念の楔（くさび）を打ち込みました。アダムとエバは「この方を信じていたら、大変なことになるかも知れない（自分に損になるかも知れない）」と間違って考え始め、これからは**何が自分に利益をもたらし、何が自分に損害を与えるのかを自分自身で決めたいと決心することになりました**。この瞬間、人間の中に孤独が始まった瞬間でした。

＜人の罪の結果もたらした3つ＞

初めの人の罪の結果は3つの形で現れました。初め、**恥の感情（羞恥心）でした。本文7節**、2人の目が開かれ、自分たちが裸であることを知り、いちじくの葉をつづり合せて、腰の覆（おお）いを作りました。このようにアダムとエバが神の戒めと約束を破り、御心に背いたとき、人の中で恥の感情が生まれます。ここで**興味深いポイント**は、善悪の実を食べたことで罪を犯したのであれば、口を隠すべきなのに、性器（生殖器）を隠した点です。これは何を意味するのでしょうか。
それは、彼らの恥が自身の存在、人の根本を揺るがすものであったことを示しています。罪によって、恥がもたらされました。

二つ目は、恐れです。
8節を見ると、「そよ風の吹くころ、彼らは、神である【主】が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は神である【主】の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。 」と記されています。罪を犯す前の人はそれまで神と会うことが喜びでした。しかし、罪の結果として、男とその妻は神の顔を恐れて避け、園の木の陰に隠れました。

三つ目は、愛の関係の崩壊（愛の関係が崩れてしまいました。）が生じました。
本文9～10節で「9神である【主】は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」10彼は言った。「私

は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であるのを恐れて、身を隠しています。」と書かれています。アダムは「園で主なる神の声を聞きましたが、裸であるのが怖くて隠れました」と答えました。厳密に言えば、これは事実とは異なります。隠れた理由は裸であることが怖かったからではなく、**「食べてはいけない」とされた実を食べたから**です。

嘘をつき始めたことは、愛の関係が壊れ始めた表示ではないでしょうか。それで神様はその点を指摘されました。本文11節で神はこう尋ねられます。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか。」すると、12節でアダムは、「私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです」と答えました。
神がエバを創造して見せられたとき、「骨の骨、肉の肉」と喜んでいたアダムでしたが、今では妻を指さして責任を押し付けるようになりました。「あなたが作ったこの女のせいです！」究極的には神の責任だと言いたげです。この時点で人間は神との関係が壊れ、夫婦の関係も壊れてしまいました。人類の祖先の最初の罪によって、私たちは恥を知るようになり、恐れを知るようになり、その結果、愛の関係が壊れてしまいました。私たちは彼らの子孫なので、心の中に恥を抱えながら生きているのです。

私もそのような恥をたくさん感じながら育った者でした。劣等感による自分の恥、自分の外見による恥、家庭の中のあったことの恥、失恋（しつれん）など人間関係の失敗による恥をたくさん感じました。しかし、この恥を隠すためにわざと明るいふりをしたり、運動もして積極的なふりをしたり、自分の弱さを隠すために強いふりをしただけでした。

恥は常に恐れに繋がります。「本当の自分が知られてしまったらどうしよう」という恐れです。そのため、私たちは周囲に壁を築き、心の扉をしっかりと閉ざします。その結果、生まれたのが人の中の孤独であり、寂しさです。
しかし、みなさん！**実に主イエス・キリストは、この孤独の問題を根本的に解決して下さるために来られたのです**。神は、人の孤独が罪による恥と恐れの結果であることをご存知で、イエス様をこの世に送られました。イエス様はこの世で、一度も恥を感じる必要のない完全な人生を歩まれました。ペテロは、3年間仕えながら、この方を見てきましたが、罪を犯したり嘘をついたりするところを一度も見たことがありませんと証言しました。

このようにこの世に来られ、完全な人生を送られた唯一のお方だったのに、私たちの主イエス・キリストの死は、恥そのものでした。十字架は単なる処刑法ではなく、奴隷のように低い身分だけが受けた最も恥ずかしい処刑法でした。一度も恥を感じる必要のなかったお方が、なぜ最も恥ずかしい死を迎えられたのでしょうか。それは、**私たちの恥を取り除くため、本来は我らが受けるべき恥をご自身が代わり背負い、受けて下さったのです。**完全な人生を送られた方が、**なぜ処刑を受けられたのでしょうか？それは、私たちが神から受けるべき罰を代わりに受けるためでした（ローマ5：8・第二コリント5：21）。**しかし、この方は死で終わらず、**よみがえられました。誰でもイエス様を受け入れ信じるなら、罪を清めて赦されて、救われるいのち道を備えてくださいました（エペソ1：7・コロサイ2：13）**。それだけでなく、**初の人アダムが破った神から義と認められる道を第二のアダムのように、イエスキリストがもう一度新たに整えてくださったのです（ローマ4：5・24）**。その結果、**以前は恥のために神の前に立つことができなかった人でも、今では大胆に神の前に立つことができるようになったの**です。

ですから、愛する信仰の家族のみなさん！**我らの恥と恐れの取り除きは、私たちと神との関係が回復されたこと**を意味します。もはや神は遠くにおられる方ではありません。私の内におられ、私と共におられる方です。神はもう恐れるべき存在ではなく、裁きを行う裁判官でもなく、私を愛し、赦してくださる父なのです。パウロの表現を借りれば、**「私のパパ（アバ）、父（ローマ8：15・ガラテヤ4：6）」**です。イエス様のおかげで、このような関係の回復が可能になりました。
イエス・キリストが成し遂げられた関係の回復は、**神と私たちとの関係に限らず、私たちと隣人との関係にも広がりました。隣人との関係回復**は、**愛の共同体**として現れます。それは**三位一体の神のような共同体**のことです。

三位一体の概念は、考えるほど難しいものではありません。完全な説明とはならないかも知れませんが、分かりやすく説明すると、私が私であるためには、体と精神とたましいが必要ですね。肉体と精神、たましいは明確に別物ですが、これらは分離して人は存在することはできません。肉体と精神とたましいが結びついて初めて私となるのです。同様に、**神も「父なる神」・「御子なる神」・「聖霊なる神」の各三位が存在しながら、一つに結びついて一つの神となられます。神は孤独な存在ではなく、共同体なのです。三位一体の神様、ご自身が共同体のモデルと模範を示して下さいました。そのように我らも愛の共同体につながり、中にいる時に孤独にならないのです。**

ヨハネの福音書17章には、イエス様が最後の晩餐を終え、ゲッセマネの園に向かう前に弟子たちのために祈られた記録があります。その祈りは**十字架にかかる前に弟子たちのために捧げられた最後の祈り**だったので、**最も重要な祈り**です。その祈りの核心的（かくしん）な内容は何でしたか。11節に「わたしはもう世にいなくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです」三位一体の神が一つであるように、弟子たちも一つとなるようにと祈られました。21節には、「父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。」と祈られました。このイエスの最後の祈りによると、**イエス・キリストが神に遣わされたお方であることを世に知ら**

せる方法は簡単です。**我らが一つになることです**。三位一体の神が一つであったように、信じる人々が一つとなることが見られる時こそ、ついにイエス様が真の神の御子であられることを知ることが出来ます。

22節にイエス様はこう祈られました。「またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。」イエス様が十字架に付けられる直前に捧げられた**この祈りの目的は、弟子たちが一つの共同体を成すこと**でした。愛の共同体であるため、もはや孤独を感じる必要はありません。
このような共同体である教会を建て上げるために、イエス様はこの世に来られ、死なれ、復活されたのです。

私たちの家の教会の家族たちは、真の愛を分かち合いがあるため、家の教会を温かい場所とすることができました。安心して笑い、楽しむことができるようになりました。**しかし、もし私たちがそこで止まってしまうならば、家の教会は失敗です。主が望まれる共同体になるためには、私たちの間に積み上げられている壁を取り除かなければなりません**。**傷つくことを恐れて表だけの話題として選んで分かち合うなら**、真の深い交わりは生まれません。そのような交わりでは、家の教会は単なる社交（しゃこう）クラブに過ぎなくなるかと思います。実はその程度の集まりのために、毎週会うためにみなさんの貴重な時間を割くのは、もったいないことではないでしょうか。

心と心が繋がる共同体を作り、経験出来るようにするためには、**自分が築いている壁を壊す必要**があります。この壁が壊れない限り、私たちは孤独です。**まず、私自身がやらなければなりません。私が壁を壊すと、不思議なことに相手も自分の壁を壊します。**

壁を壊す具体的な方法は、自分の恐れや恥をさらけ出すことです。牧場の時に、**ある人が勇気を出して少しだけ自分を開いて分かち合った時に、指摘してはいけません**。それでは心の扉を閉じてしまい、再び孤独な状態に戻ってしまいます。また、「こうしなさい」「ああしなさい」と助言や処方するのもとても気をつけなければなりません。そのような意図じゃなかったとしても、相手を自分よりも劣っているようにと見なしてしまう意味を含むからです。**却って私たちは正直に自分の証を分かち合うべきです**。自分が経験した同じ体験を語り分かち合ってください。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！私たちは孤独に生きるように神に創造された存在では決してありません。私たちの孤独は恥と恐れから来ています。孤独を乗り越え、神が望まれる共同体を築くためには、まず自分の壁を壊し、他人を受け入れなければなりません。早速すぐに自分の全てをさらけ出す必要はありません。しかし、いつか自分を取り囲む壁を打ち壊し、取り除かなければならないという事実を認識しておく必要があります。家の教会を作った理由は、まさにこのためであることを忘れないで頂きたいと願います。

とにかく「イエスを信じなさい、イエスを信じなさい」という安易な伝道をするよりも、イエス様は、あなたたちが私の弟子であることを知る方法は、あなたたちが一つである姿を見せることだと言われました。伝道のためにも、私たちは愛の共同体を形成する必要があります。**愛する信徒の皆さん、主が望まれる共同体を一緒に作って見ましょう。**
真の神を知らない人々は孤独です。自分が孤独であることすらも認めようとせず、その孤独を解消する道がないと思い込んでいるため、さらに孤独を感じます。そのような方々は、心と心がつながる共同体を見て経験したとき、自分の孤独を意識します。そして、その孤独が解消（かいしょう）されたときこそ、彼らはイエス様が真の神の御子、自分の救い主として告白することになるでしょう。願わくは、我らの教会の中にある全ての家の教会各牧場が、このような心と心が繋がり、愛の共同体となって、自身の恥や恐れをさらけ出し、孤独に陥る人が一人もいないように、さらに、人生の孤独の中にいるVIPの人々が繋がって、孤独から解放され、キリストイエスを信じ、救われる奇跡が今年中にも益々おこされますように神の祝福を心からお祈り致します。アーメン！